西東京市市民協働推進センター
平成２１（2009）年度第３回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２１年7月２１日（火）　午後7時～8時２０分
■開催会場：イングビル3階　第１会議室
■出席委員：有賀委員、熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、宮﨑委員、
柳澤委員、山辺委員、吉田委員
<以上１１名、五十音順>
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、加藤職員

○委員長より開会のあいさつ

１．報　告　事　項

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

○事務局より６月に行った主な事業などについて報告した。

委員長：「Tech　Soup　Japan」ではどういうことを勉強してきたのか。
事務局：実際の事業の流れや、どのような団体が寄贈対象となるのか、などについて聞いてきた。今回は日本NPOセンターが間に入り実現することができた。市内のNPOにパンフレットを送付し、会えたNPOの方には直接説明した。
委　員：「連絡調整会議」では企画政策課とどのような話をするのか。
事務局：月末、月初ごろに月次報告、今後の予定を確認するとともに、今後の事業等について企画政策課と意見交換しながら進めていっている。
委　員：協働の基本方針について。市は協働の原則に基づいて頑張っていることと思うが、市としてはどのような事業を協働としてとらえているのか、一覧のようなものはあるのか。
事務局：特にない。企画提案事業としてやっているものはある。あとは、花の会など個別にやっているものもある。センターとしてはゆめこらぼ通信で少しずつ紹介していき、１年ほど後に一覧表ができればよいと考えている。
委　員：市でも基本方針に基づき具体的な事業を協働事業ととらえ、その事業に関する進捗状況を担当課や企画政策課が自分たちでチェックするように、企画政策課に働きかけてもよいのではないか。自身が取り組んでいる事業も協働の枠組みの中の扱いと考えられているのか。ただの一民間企業として頼みやすいので頼まれているだけなのか迷う時もある。今度、企画政策課と懇談する時に聞いていただきたい。
委　員：以前は生活文化課が協働の担当部署だったが、企画政策課に代わってどのようなところが良くなったか。
事務局：企画政策課の方が市役所の中で市長に近い位置にいるので、比較的物事が動きやすいこともあると聞いた。ただ、どのように変わったかについては今のところ、具体的に言えるものはない。
委　員：企画政策課は各部門の調整役、発信源である。各部署でどうにもならないすきま問題を調整したり、各部署だけではできないことを支援していったりする役割があるのではないか。
委　員：具体的に良くはなったのか。アクションが速くなったなど具体的に変わったところがあるか。
委　員：一番大きいのはこのセンターができたことだと思う。社会福祉協議会のボランティア・市民活動センターは福祉部の補助金で運営されていた。協働を推進する、市民活動を支援するということで企画政策課に所管が替わりこのセンターができた。所管が替わってから丸２年になる。
事務局：具体的に変わったところはなかなか見えてこないが、動きが速くなったという実感はある。
委　員：センターに対する期待は大きい。市の縦割り行政の弊害が言われているが、「センターがなくても企画政策課が頑張ればよいのではないか。我々から言われないと変わらないのか」とあきらめたこともあるが、このセンターには期待している。だから実質的に何か変わったのかと思っていた。
事務局：企画政策課に代わって役所の内部の調整がスムーズにできるようになった。市民活動団体あるいは市民活動家同士、地域の中で活動している人たちを結びつけていくうえで、このセンターの役割は大き

い。また、活動している人たちと行政をつなぐ役割も期待されていると思う。
委　員：センターができてここが変わったと言いたいが、今はセンターを見てくださいとしか言えない。
事務局：そういうことがあったら、この場で報告させていただく。
委員長：登録市民活動団体リストとはどういうものか。
事務局：市民協働推進センターに利用登録をしている団体であり、６月に７つの新規登録団体があった。
委員長：引き続き月次報告を行うようお願いする。「その他」とはどのような相談か。
事務局：センターには様々な人が来所し、場合によってはセンター機能が混乱したり、他の利用者に迷惑が及んだりするようなこともある。そのような時に職員も対応に苦慮することがある。
委員長：センターにはサロン的な役割もあるがそれだけではないので、あまり頻繁であれば職員のメンタル面のことも考えて対策を取る必要があるのではないか。
委　員：市民活動団体リストは何かカテゴライズされているのか。
事務局：現在登録されているのは１３団体なので、今は分けていない。増加に伴い分けていくつもりである。
委　員：分ける時の考え方はあるか。
事務局：市の情報ステーションの分け方に準じて、１５のカテゴリーに分けている。
委　員：市の方に登録したのにまた登録しなくてはいけないのか。
事務局：皆さんに言われるが、両方に登録していただきたい。課題であると認識している。

２、　９月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

○事務局より９月、１０月の実施事業について説明。

委　員：団体設立講座はどのくらいの規模の団体の設立を考えているのか。また、第２回トークサロンについて、子育てママのトークサロンの２回目を宮﨑委員に担っていただくということか。
事務局：子育てママのトークサロンは１回目を行った結果、できればそのまま継続していければよいと考えている。
トークサロンは子育てママのトークサロンとは別に、宮﨑委員に担当にしていただくトークサロンもやりたいということである。
委　員：紛らわしいのではないか。私が子育てママのトークサロンを引き受けた時は、１回目に集まった方たちと今後のことを話し合って進めていくことになっていたはずなのに、もう次のゲストが決まっているのはおかしいと考えてしまう。同じ名称はよくないのではないか。
委員長：やはりわかりづらいので、名前を変えた方がよいのではないか。１回目の子育てママのトークサロンの方はそれで動いているので、２回目の方をトークサロンと言わないで別の言い方にすればよいのではないか。
事務局：事業名としてトークサロンという位置づけで計画を立てていたので、第１回、第２回となっている。
子育てママのトークサロンが継続して進んでいき、その中でそれをトークサロンととらえているのなら、新しい名称をつけてもかまわない。
委員長：混乱があるので、整理した方がよい。第２回というのははずした方がよい。トークサロン○○という例も挙げられたが、何か工夫して、何のトークサロンかわかるような名称をつけるとよい。
事務局：団体設立講座については、２～３人もしくは１０人程度の規模を考えている。
委　員：団体設立講座の３回目は既存の団体向けなのか。団体設立講座なのにいきなり広報講座があるのはおかしいのではないか。またカテゴライズがわかりにくい。例えば団体設立なら、「市民活動でもできる」「ＮＰＯ法人もある」「今は、一般社団法人も楽」など、そういう構造を説明すればよい。カテゴリーを考えたほうがよい。
委　員：１０月の専門相談会は無料か。
事務局：参加費の徴収についてはこれから企画政策課と協議を行う。
委員長：この計画はかなりがちがちに固まっているのか。
事務局：まだ固まっていない。
事務局：この４つの事業は、事業計画にのっとって実施するものである。また組み合わせについては考えているところである。指摘のあった３回目は団体設立講座もしくは広報講座というように考えている。
委　員：コミュニティビジネスが４つのうちの１つに入ってくる位置づけがわからない。市民活動とコミュニティビジネスとは必ずしもつながるとは限らないし、市民活動の中の１つのものだと思います。もし、

コミュニティビジネスについて実施するのなら、他にもいろいろなものが講座の中に含まれるのではないかと思う。

事務局：コミュニティビジネス講座への取り組みは事業計画書に明記されており、市民協働推進センターの事業として取り組む必要がある。４回連続ではなく、市民活動であれば入門編・団体設立編、コミュニティビジネスでは団体の作り方・実践者による体験談・資金調達の話などというように、対象を２つに分けてもよいと考えている。

委員長：例えば団体設立について聞きたい人や資金のことだけ聞きたいというニーズにも応えられるよう、４回すべて参加しなくてはならないとはしないほうがよい。最終的に何を目指すかによって、想定するモデルを提示し、選び方を示せばよいのではないか。どのような流れで実施するかをきちんと設計し、委員のみなさんの知恵を拝借しながら検討していただきたい。

委　員：必ずしも連続で参加しなければならないものとはせず、今年実施した後ニーズを調査し、来年度に絞り込みを行えばよいのではないか。今年はアラカルト的にいろいろ行っていくというイメージで考え、どの講座も１回完結に耐えられるものとしたほうがよい。

委　員：市民活動とコミュニティビジネスの違いがわからない人でも参加できるようなものが望ましい。また参加費が高いと参加しないので無料が望ましいのではないか。

委　員：PR 活動はどのようにするのか。

事務局：市報、チラシ、市の掲示板などで行う。

委員長：８月は運営委員会が休みなので、検討するのは今回のみである。このような取り組みに詳しい委員の知恵も借りて実施してほしい。

２、審　議　事　項

１、２００９年度第２回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録(未定稿)について

○第 2 回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録（未定稿）の確認を行った。質問や修正点はなく、未定稿を確定稿とした。

３、協　議　事　項

１、西東京市市民協働推進センターの事業について

○事務局より３つの事業企画を説明した。

事務局：７月２４日の CSR ネットワーク（仮称）については現在市内の飲食店・不動産会社・保険会社など７名が参加予定である。８月７日の子育てママのトークサロンについては、現在７名の申し込みがありボランティア・市民活動センターに保育ボランティアを依頼している。市民シンポジウムについては、アスタのセンターコートで開催し、橋本委員と嶋田安民さんに話をしていただく。冒頭で市内のダンスサークルの人たちに踊ってもらう予定である。また、パネル展示を行う点が前回と変わっている。通行人に市民活動にはどのような活動があるのかなどを知ってもらい、活動団体への参加者が増えればよいと思っている。パネル展示の参加予定は現在１４団体であり、事務用品も貸し出すことを補足した。

委員長：子育てママのトークサロンと市民シンポジウムの企画は運営委員の方々にご努力いただくのでよろしくお願いしたい。

事務局：市民活動ネットワークはすでに終了しているので後ほど報告する。市民シンポジウムにパネル展示を企画したのはセンターができる市民活動の支援の１つと考えている。市民ネットワーク参加者、登録団体にも声を掛けている。運営委員の皆様にもご協力いただきたい。

委員長：パネル展示は実際にはどんな団体が希望しているのか。

事務局：花の会、世界の子どもたちに暖かいセーターを送る会、ボルネオオランウータンサバイバルファウンデーション、アジア植林友好協会などである。

委員長：他に意見はあるか。

委　員：企業懇談会の名称案について、反対するわけではないが、意見を述べたい。CSR というのは広い概念

で、例えば企業のコンプライアンス（法令遵守）、情報公開、単に社会貢献など市民に対する支援以外の意味が多々込められている。CSR というと企業のコンプライアンスまですべてやるという意識になるので、きちんと切り分けをしておく必要がある。その点を押さえた上で講師に伝え、みなさんで創りあげていくのがよい。

委　員：企業懇談会について報告がある。多摩信用金庫の長島剛さんと打ち合わせをし、CSR 重視ではなくコミュニティビジネスの方を強めに出していくことになった。企業の力を市民に貸してもらい、地域に生かしていくという視点となっている。今回参加を予定されている皆さんはそれぞれに持っている企業の力、ネットワークを用いて、西東京市をもっとよくしたいと思っているので、結果的には CSR 的なものになるかもしれないが、切り口はコミュニティビジネスの方が強い。

委員長：CSR は幅広い考え方なので、もう少し絞った方がよいのではないか。今回はコミュニティビジネスの方が強いということなので、今後に向けて CSR の考え方を整理して企業にも投げかけてもよいのではないか。

委　員：いろいろな大きさの企業があり、コミュニティビジネスに関心のないところもあるので、片寄ると関心のある企業だけでまとまってしまう可能性がある。敷居を低くして、参加者で方向づけをしてもらうのがよい。

委　員：市民シンポジウムについて聞きたい。パネルをたくさん立てると閉鎖的になってしまい、視界も遮られる。ダンスやトークの時に囲ってしまうのはどうか。

事務局：パネルは通路側に斜めに置く。

事務局：以前、社協のふれあいのまちづくりのイベントで使用した時には２０地区分のパネルが置けた。

委　員：パンフレットは置けるのか。

事務局：スペースがあれば置きたいと考えている。

委　員：来場者は何人くらいか。

事務局：４０～５０人くらいと考えている。

委　員：客席があってダンスもするというのはどのようにするのか。どこの団体がでるのか。

事務局：大人６人、小学生６～７人のダンスサークルである。ステージは幅５～６m、奥行きは５mあればよい。

事務局：社協で以前ふれあいのまちづくりの事業でパネル展示とステージのような空間を設け、よさこいソーランを行ったときは、客席も４０～５０は確保できた。パネルの立て方を工夫して通路側からもステージが見えるようにするとよい。スペース的には大丈夫である。

委員長：社協での経験を生かし、パネルが倒れたりしないよう配慮して実施していただきたい。また、お盆の時期なので、われわれ委員も参加して協力したい。

事務局：展示については7月２３日まで参加を募る。

委　員：団体登録していないが展示に参加してよいか。

事務局：ぜひ、登録していただきたい。

４、その他

１、市民活動ネットワークについて

○事務局より市民活動ネットワークについて報告を行った。

事務局：参加団体は２１団体、参加者は２８名、３０代～７０代であった。子育て・障がい者・高齢者・アニメ制作・IT 系コンサルタント・市民活動に興味のある市民など幅広く参加していただいた。会議室を増やしてほしいという要望をいただいたほか、名刺交換などを行い、子育て支援に関わる団体同士のコラボも生まれつつある。次回は9月の第 3 週にアジア植林友好協会より自分たちの活動の紹介や今後の展開を話していただき、また、どんな人材・協力が市民活動ネットワークから欲しいかについて話していただく。話していただいたことについて意見交換や情報交換を行い、そこから具体的な地域課題や協働について話し合っていきたい。

委　員：私も参加したが、参加者は年齢に幅があり、これから市民活動を始めたいという若い人も来ていた。皆がひととおり意見を言えたので、これから良くなっていくのではないか。子育て系の人は昼間の開

催を望み、働いている人は夜の開催を望むので時間の設定が難しい。次回は１つの団体に事例報告をしていただき課題の抽出をする予定だが、それだけを続けていっても面白くないという意見も出ている。今後どのように展開していくか、またどれだけオープンにしていくか考えていく必要がある。
協働している人のリストを作り集まってもらい、市との協働を進めていくうえでの課題を出し合って集約し、市と意見交換の場が持てるようになるとよい。

委　員：期待している人が多いので、これからどのように育てていくのかが大切である。

委　員：事務局と集まったメンバーが自律的にネットワークを作っていくという流れをどのように作っていくのかが難しいが、うまくやっていただきたい。

委員長：ネットワークづくりはセンター機能のコアの部分なので、できるだけ多くのメンバーが参集できるようにしてほしい。開催時刻については立場がそれぞれ異なるので、開催時刻をスイッチしながら実施していくなど方法を考える必要がある。時間、内容も含めて今後も継続的に検討していく必要がある。

２、次回運営委員会日程について

○次回は、９月１５日（火）１９時からイングビル第１会議室で開催する。

３、その他

事務局：次回の運営委員会では「協働」の持つ意味について意見の交換を行いたい。第１回の運営委員会の際に配った「協働とは何か」と「市民活動団体との協働の基本方針」に事前に目を通してきていただきたい。

事務局：報告事項で追加がある。３月に予定している市民のつどい（仮称・NPO まつり）は実行委員会形式での実施を考えている。１０月ごろから取り組みたいと考えている。

以上をもって散会した。